

2023年度 年間事業計画（熱海市児童発達支援センター）

2022年4月1日作成

<p>基本方針 (児童福祉法 法令)</p>	<p>(1) 指定児童発達支援事業者は、保護者及び障害児の意向、障害児の適性、障害の特性その他の事情を踏まえた計画を作成し、これに基づき障害児に対して指定児童発達支援を提供するとともに、その効果について継続的な評価を実施することその他の措置を講ずることにより障害児に対して適切かつ効果的に指定児童発達支援を提供しているか。</p> <p>(2) 指定児童発達支援事業者は、障害児の意思及び人格を尊重して、常に当該障害児の立場に立った指定通所支援の提供に努めているか。</p> <p>(3) 指定児童発達支援事業者は、地域及び家庭との結び付きを重視した運営を行い、都道府県、区市町村、障害福祉サービスを行う者、児童福祉施設その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との連携に努めているか。</p> <p>(4) 指定児童発達支援事業者は、障害児の人権の擁護、虐待の防止等のため、責任者を設置する等必要な体制の整備を行うとともに、その従業者に対し、研修を実施する等の措置を講ずるよう努めているか。</p>		<p>支援理念 (事業運営方針)</p>	<p>『障がいのある方と家族の未来を明るくしたい』 子ども1人1人と向き合い、その子に合わせた支援を行うことで、その子だけでなくより良い家庭環境を支援支援するため利用される方に対して最善を尽くします。</p>		
<p>法人運営方針</p>	<p>支援</p>	<p>TEACCH（ティーチ）、感覚統合、SSTを基本に支援を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、理論ではなく、観察から自閉症の特性を理解する 2、ご家庭と専門家に協力してもらう 3、自分らしく地域の中で生きていけること、自立を目標にする 4、個別に正確な評価を行う 5、構造化された指導法を利用する 6、認知理論と行動理論を重視する 7、ジェネラリスト（自閉症に関わる人は、自閉症を取り巻くあらゆる問題に精通していなければならないという考え方）であること 8、自閉症教育、支援コンサルタント「水野敦之先生」、よこはま発達クリニック 臨床心理士「佐々木康栄先生」、常葉大学短期大学部講師 音楽療法士「花岡清美先生」、KONOMI 作業療法士「久保友明先生」等、専門家におけるコンサルテーション・勉強会の導入 	<p>経営</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1、サービス向上を目指した事業運営（PDCA サイクルの確立） 2、職員一人ひとりが責任を持って仕事に取り組める環境づくり（働く喜びを感じながら働ける環境にする） （法人職員としての働く姿勢《考え方・取り組み方》を身に付ける） 3、問題意識の共有とその解決方法を探る （課題ごとの研修や勉強会の実施、事業所間交流を深める） 4、経営目標の数値化とグラフ化による多角的な分析を行い、今後の事業展開に関わる整備計画を調整・決定する 5、経営外部顧問・・・イワサキ経営 6、労務外部顧問・・・ふるや社労士事務所 	<p>部会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●環境整備監査/保護者コネクト部会 部会 岩崎 ●身体拘束廃止/感染対策部会 部会長 榎本 ●災害防災対策/事故防止部会 部会長 小澤 ●本部監査 風間康寛・田中梨恵
<p>施設目標</p>	<p>前年度の改善への取り組み</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事への参加ができた。（節分） ・年2回の市の親子教室にIPP0のプログラムを体験していただく機会があり、保護者の方の相談に直接のこともでき利用につなげることができた。 ・利用者が通うリハビリの担当医と連携しIPP0での個の支援を共有することができた。 ・年2回の一般園との交流はコロナの関係で1回の開催となってしまった。その他、熱海市全園の5歳児対象のイベントに初めて参加し交流の幅が広がった。 			
<p>施設目標</p>	<p>今年度の施設目標</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担当制にし、子どもの細かい変化に気づき対応できるようになる。（日常的なアセスメントの強化） ・アセスメントの強化をすることにより今まで以上に支援の個別化を図り、自立までのプロセスを点ではなく線でつなげていけるようになる。 ・コロナの時期にはできなかった親子のつながり・保護者同士のつながりを深めるような活動やイベントを再開していく。 ・地域の行事への参加。 ・地域での縦のつながりを作っていく。（幼稚園や放課後デイサービスとの交流など） 			
<p>施設運営計画</p>	<p>◆健康支援／状態把握・増進・疾病対応</p>	<p>◆災害への備え</p>	<p>◆研修計画</p>	<p>◆施設行事等</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ●健康及び発育発達状態の定期的、継続的な把握 ●全利用者への緊急連絡カードの作成、更新 ●登園時及び支援中の状態観察、また異常が認められたときの適切な対応 ●年1回職員健康診断 ●AEDの設置 ●提携病院・・・魚住内科 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設内外の設備、用具等の清掃及び消毒等、安全管理及び自主点検 ●利用者及び職員の清潔保持 ●感染予防対策マニュアルの作成と実施及び保護者との情報共有 ●インフルエンザ対応 ●コロナ感染症の対応 ●BCPの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ●全体避難訓練（地震/災害 1/月） ●消防署見学（9月） ●消火訓練/職員（1月） ●通報訓練/職員（6月） ●ウエックスによる年2回の消防器具点検 	<ul style="list-style-type: none"> ●キャリアパス制度（全職員） ●施設ミーティング（全職員対象 月1回） ●部門長会議（月1回） ●内部監査（年6回） ●育成プログラム（新入職員） ●外部コンサルタントによる研修、実地指導 ●外部研修への参加 ●虐待防止、身体拘束研修（年3回） 	<ul style="list-style-type: none"> ●参観会・・・各月 ●懇談会・・・年3回 ●卒園式・・・3月 ●健康診断＞5・12月(魚住内科) ●防災訓練＞5・10月 ●花岡先生＞各月 		
<p>ガイドライン評価の進め方</p>	<p>★事業計画の作成</p>	<p>★保護者等による評価</p>	<p>★従業員による評価</p>	<p>★評価集計 ～ 担当会議</p>		
<p>3月～4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●改善案からの取り組み報告を各部門にて専用シートへまとめる。 ●各部門にて評価に基づいた翌年度目標、課題を明確化する。 ●ガイドライン検討会を各部門で開催。 ●年間事業計画を部門毎に作成、本部へ提出。 ●年間事業計画を掲示、周知。 	<p>6月～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本音を言いつらいことを考慮し、モバイル形式のアンケートの実施を行う。 ●モバイル形式のアンケート以外に、紙ベース評価表も用意し、本部へ郵送出来るようにする。 	<p>6月～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本音を言いつらいことを考慮し、モバイル形式のアンケートの実施を行う。 ●モバイル形式のアンケート以外に、紙ベース評価表も用意し、本部へ郵送出来るようにする。 	<p>8月～10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保護者、従業員、部門長評価、本部監査の4点の視点から評価を集計。 ●集計結果を踏まえ問題点、改善点を洗い出し、今後の課題を担当会議にて話し合う。 ●分析、協議結果にて改善案を決定。 ●集計結果、改善案を掲示、ホームページ上に公表。 	<p>11月～2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目標に沿って改善案を実践。 ●改善後の取り組みを毎月の部門長ミーティングで発表。 ●本部監査により進捗度をチェック。 		